

西国三十三霊場巡りマラニック 番外 華頂山 元慶寺

十九年十二月九日

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

桓武天皇の孫にあたる遍照は仁明天皇の崩御に従い出家し、延暦寺で仏門に入り、貞観11年(869年)に元慶寺を創建したとされている。「山門」は竜宮造りになっており、唐風で珍しい。「山門」には梵天と帝釈天が安置されていたようであるが、それらは京都国立博物館に寄託されている。門をくぐると、石畳が続いており、正面に納経所、左手に「本堂」が見える。「本堂」は木立の中に建てられており、元慶寺の境内が狭いためか「本堂」の前には広場もない。本堂には本尊である薬師如来の他に遍照の作と伝えられている木像が安置されているという。「本堂」の前の石畳を納経所の方に一寸進んだ左手に『人皇六拾五代花山院法皇御落飾道場』と彫られた石柱標識が建てられている。

